

平成22年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成22年1月8日

礼文町長 小 野 徹

新年あけましておめでとうございます。

平成 22 年の輝かしい新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々のお忙しい中、ご出席を賜り厚くお礼申し上げますとともに、日ごろから町政の推進にあたり大変温かいご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼申し上げます次第でございます。

今年は「寅年」であり、干支は「庚寅（かのえとら）」であります。これまでを深く反省し、あらゆる停滞を一掃し、さっそうと前を向いて進んでいく年であり、稔りの多い年とも言われております。残念ながら、本町の昨年の水産水揚げは、ホッケ、タラ、ウニ、コンブ等、主要魚種の漁獲量の落込みと価格の低迷により、前年を8億円以上も下回る29億円ぐらいと見込まれておりますが、今年こそ浜が大漁でにぎわうことを期待したいと思っております。

また、「寅年」には、「人が助け合う」という意味があり、怒りや悲しみを抑え、平常心で冷静に物事を判断していく。そして、社会全体が協力しあう中で、物事が進展していく。そんな年周りになるようであります。

今年2月はバンクーバー冬季オリンピック大会、6月にはサッカーのワールドカップ南アフリカ大会が開催されるというスポーツイヤーでもあります。いつも以上に、元気に輝ける良い年、飛躍の年にしたいと大きな期待をしております。

さて、ただ今、町の表彰条例に基づいて「功労者表彰式」を行わせていただきましたが、本日受賞された皆様方は、永年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって郷土礼文町の発展のため献身的にその職務に精励され、地方自治や住民自治の進展、交通安全活動、また、地域を災害や火災から守り、住民の福祉の向上や教育、青少年の健全育成に尽力されるなど「ふるさと礼文町の発展を願い、子や孫のために大きな夢の種をまかれてこられた」皆様方でございます。多大なるご功績を賜りました功労者の皆様方に心より深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

また、昨年4月には、礼文町では平成6年以来 15年ぶりの祝事がありました。

4月20日と21日、二日続けて「浜下コトさん」と「中野みかさん」のお二人が長寿100歳を迎えられたのでございます。

本町の輝かしい歴史の中に、ともに時を刻み、本町の振興・発展を支えてこられたお二人に心からお祝いと感謝を申し上げますとともに、更なるご長寿を心よりお祈り申し上げます。

また一方で、私は礼文島の子供たちが小・中・高連携の取組とともに「ふるさとを学ぶ」学習に一生懸命に取り組んでいる姿にとても感銘しています。

修学旅行での「礼文町観光大使」や「礼文島コンブの学習」

「礼文島PR活動」、「高山植物の学習を通じたボランティアガイド」など、ふるさとの素晴らしさを再発見するとともに観光振興にも大きな役割を担っていただきました。

このような頑張りの中で、香深中学校が卓球部と少年の主張大会において2年連続で全道大会出場を果たし、特に、少年の主張全道大会では全道二位、準優勝という快挙を成し遂げられました。

また、礼文小学校児童の全道カルタ大会出場、船泊中学校の「南中ソーラン全国交流大会」での見事な舞いや香深中学校野球部の「全国離島甲子園」大会での活躍、そして、礼文高校生の「歴史ある全国美術展での最年少入選」と「高校ポスター部門コンクールでの知事賞受賞」など、私達は「子供たちの頑張り」から沢山の元気をいただきました。これもひとえに、教育関係者各位の熱心な取組の賜物であり、心から厚く御礼を申し上げる次第であります。

礼文の将来を担う子供たちが「ふるさと礼文」を学びながら、町の将来や地球規模で物事を考えるという、この素晴らしい取組みが、これからも更に広がっていくことを期待しているところでございます。

また、交通安全運動も、地域の皆様方や指導員みなさんの熱心な活動に支えられ、昨年11月20日に「事故死ゼロ1000日」を達成。来年4月4日の「事故死ゼロ1500日」という新しい目標に向かい全町を挙げて取り組んでいるところであります。

更に、昨年 10 月には、多くのみなさんのお力添いによって、待望の「礼文島温泉 うすゆきの湯」がオープンし、永年の夢が実現いたしました。すでに 1 万 3 千人を超える多くのみなさんに利用されており、嬉しく思っています。

「うすゆきの湯」がみなさんに愛され、健康の源となり、町民みなさんをはじめ礼文島を訪れる人達の保養と憩い、そして交流の場として喜んで利用していただけるよう努めてまいります。

このように、礼文町は、たくさんの皆様方の大きなお力に支えられて、今日の繁栄が築き上げられてきたところでございます。

今、私たちは、多くの先人に感謝しながら、次の世代に「輝くふるさと礼文町」を引き継いでいかななくてはなりません。私は、2010 年も、礼文町に元気を取りもどし、輝ける年とするため、更に全力を傾けてまいりますので、尚一層のご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、国内経済は、一昨年のアメリカ発の金融危機に端を発した世界的な景気後退に加え、デフレや円高の進行が追い打ちをかけ、経済の回復ができないままに新しい年を迎えました。

また、国政においても衆議院議員総選挙の結果、政権交代が実現して民主党鳩山新政権が誕生し、国の新年度予算案も過去最高の 92 兆 2992 億円となっております。

しかし、「コンクリートから人へ」に象徴されるように、北海道開発予算が33年ぶりに5000億円を下回るなど公共事業の大幅な削減といった大きな政策転換が図られております。特に、全国の離島における公共事業費は576億3千万円と19%の大幅な減額であり、今後、わが町の地域振興にも大きな影響が出てくるものと考えております。

こうした中であって、私は、漁業の振興なくして本町の発展は難しいと考えており、今年も、漁業を支える漁場造成や漁港の整備をはじめ生産性の維持・向上を図るため将来を担う若手後継者を育成し、作り育てる漁業として「コンブ養殖」の推進やウニの稚仔放流など、まず第一に、漁業の安定生産を図っていききたいと考えております。

また、心配されておりました「離島漁業再生交付金」は最終的には対前年度比4%増の13億7800万円となっておりますので、これを活用し漁業振興に努めてまいります。

さらに、どうすれば島のものにどれだけ多くの価値を加えて売り出すことができるのか、その価値を見出す取組みが必要であります。

それは、水産物の生産だけでなく、これに加工、流通や販売と云った水産をトータルで取組む体制づくり、所謂一次産業と二次産業、三次産業を掛け合わせた $2 \times 3 = 6$ 「水産業の六次産業化」を進めることによって、礼文島に「生産性の向上と付加価値の増大、雇用機会の増加」を図る取組みが必要ではないかと思っているところでございます。

また、「観光」につきましても、残念ながら、前年比マイナス8%減の16万2千人と推計されており、7年連続で入込数が減少となっています。

昨今の世界的な不況という厳しい経済情勢の下で礼文島観光も強い向かい風に直面しているわけであります。

しかし、こんな時こそピンチをチャンスに変える積極的な取組みが必要でありますので、私は、2月に東京ドームで開催される「第20回世界ラン展」に礼文島を代表する「レブンアツモリソウ」を特別出品することといたしました。世界中のランの花が並ぶその中に、レブンアツモリソウも凛とした姿を現すのでございます。礼文島から世界規模での環境保護の情報発信を行ない礼文島の名前をしっかりと世界中の人達にPRしたいと考えております。

また、今や観光は、ツアー旅行から小グループや家族、個人旅行へと移行しており、「滞在型観光」の推進が求められております。それは、礼文島でなければ味わうことのできない感動を求めて最北端までおいでになるわけでございます。したがって、新たな旅行形態のプロモーションにより観光の活性化を図る必要がありますので、昨年、地方の元気再生事業で試みた「礼文島西海岸クルージング」の取組をさらに進めてまいりたいと考えております。また「利尻礼文サロベツ国立公園」や「宗谷シーニックバイウェイ」など、宗谷全域をひとつの観光圏域にした「ゆとりツーリズム」や「エコツアー」などの新しい取組みを行ない、にぎわいと活気に満ちた礼文島を取り戻してまいります。

依然厳しい状況にある日本経済であります。今年前半は、デフレや円高が景気の足を引っ張るのではと警戒されています。しかし、後半の日本経済は過去最大の大型予算と経済対策が景気の下支えとなって力強く回復すると見込まれております。

私は、この機をとらえて、わが町の活力を高める「漁業」と「観光」が連携し、礼文島の海の幸を全国の食卓へお届けするという大事な役割に加え、礼文島の豊かな自然の中で雄大な景色や可憐な高山植物を愛し、北の海の幸を楽しみ、最北の島の温泉でゆったりと過ごしていただく「国民の癒しの島づくり」を推進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、4年前の礼文町の「実質公債費比率」は、危険水域と言われた25ポイントを大きく上回り、全道ワースト7位全国でもワースト16位の26.9ポイントでありましたが、平成20年度の決算では21.3ポイントと大きく改善され、さらに、21年度決算では18ポイント台になると見込まれておりまして、健全化に向かって着実に歩みを進めております。

これもひとえに「行政改革（集中改革プラン）」に対する町民皆様の温かいご理解とご協力によるものであり、心から厚く御礼を申し上げます。平成14年度からスタートした「集中改革プラン」も今年3月で計画期間が終了となるわけではありますが、これからも厳しい状況

が予想されるところでございますので、引き続き財政の健全化には十分留意しながら取り組んでまいります。

昨年、私は、町民みなさんの温かいご支援をいただき、二期連続の無投票当選という大変な栄誉に浴することができました。ここに、あらためて感謝を申し上げます。

皆様方からいただきました不満や批判を含めた声なき声をしっかりと受け止め、自分の抱いている志や目標を忘れていないかと常に自らに問いかけ、町民みなさんの声を大切にしながら、心を砕いて頑張っております。

今年の仕事始めで、職員には「常に、町民みなさんの幸せのため、先んじて物を考え、いろいろ発想して、あらかじめ、適切な手を打ち、できるだけ難局に直面しないよう、普段から常に心がけるように、そして、清く正しく美しい町づくりのリーダーになるように」と訓示をいたしました。

私は、多くの先人が築いてこられたふるさとをより元気な町にして未来に引き継いでいくため、職員ともども一丸となって努力してまいります、どうぞ、これからも尚一層のご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます次第でございます。

結びに、本日お集まりの皆様のみすますのご健勝と、今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年でありますよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

“ご清聴ありがとうございました。”